

科目名 (英)	Comprehension of Human	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	黒澤 芳恵
	人間の尊厳と自立	授業 形態	講義	総単位 時間	30時間	開講区分 曜日・時間	前期 水曜 2限
学科・コース	介護福祉士科						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
本科目は、介護福祉職としての本質や倫理観を学ぶ基礎的な科目であり、利用者や家族等に対して多面的に理解を深める重要性について考えながら受講してほしい。福祉理念を理解し、人権尊重や権利擁護の考え方を養うとともに、利用者の尊厳の保持や自己決定の考え方を理解する内容とする。講義での学びとともに個人ワークやグループワーク等の演習も行い、その中で一人ひとりが考え、また互いに意見を交わしながら理解を深めてほしい。							
【到達目標】							
人権思想・福祉理念の歴史の変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を説明できる。 人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解し説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
・新・介護福祉士養成講座1「人間の理解」中央法規 ・「介護福祉士国家試験ワークブック2024上」中央法規				教科書やワークブックの次回の範囲を読み、予習をしてくる。また授業後もノートやプリントを振り返る等の復習をし、学んだことを確認しよう。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
	【到達目標】 前期の授業の進め方、評価の方法を理解する。 「自分」という人間について表現することができる。				【到達目標】 介護を必要とする人の生活と人権について理解できる。 専門職に必要な権利擁護の重要性を理解できる。		
1	【授業内容】 オリエンテーション 「人間を理解すること」の意味とは			9	【授業内容】 介護における権利擁護と人権尊重 利用者の人権と生活		
	【到達目標】 人間を理解することの意義について理解できる。 利用者主体の考え方とその実現に必要な要素を理解できる。				【到達目標】 権利侵害(消費被害、ハンセン病など)の実例や実態とその防止について理解できる。		
2	【授業内容】 人間の尊厳の意義 利用者主体の考え方			10	【授業内容】 権利侵害の実例① 消費被害、ハンセン病の歴史		
	【到達目標】 世界や日本の人権思想の歴史的展開を理解できる。 人権尊重(生存権、自由権、平等権など)の歴史を理解できる。				【到達目標】 権利侵害(高齢者虐待など)の実例や実態とその防止について理解できる。		
3	【授業内容】 世界と日本の人権思想の歴史的展開			11	【授業内容】 権利侵害の実例② 高齢者虐待		
	【到達目標】 戦前から戦後、現代までの人権や福祉理念の変遷について理解し、介護福祉士としての倫理観との関連を考えることができる。				【到達目標】 自立の概念の多様性を学び、自立とはどのような状態をいうのか表現することができる。		
4	【授業内容】 福祉理念の変遷 介護福祉士の倫理観			12	【授業内容】 自立の考え方 いろいろな視点からみた自立		
	【到達目標】 現代社会が抱えるさまざまな人権に関する課題を理解できる。 より人間らしく生きることの意義を考えることができる。				【到達目標】 介護を必要とする人の自立と自立支援について理解できる。 自己決定、自己選択の意味を具体的に理解できる。		
5	【授業内容】 福祉課題の変遷 貧困、障害、子ども、高齢者に関する人権など			13	【授業内容】 介護における自立支援の理論① インフォームドコンセント、アドボカシー、リビング・ウィルなど		
	【到達目標】 現代における介護、福祉の分野での新たな福祉理念について理解できる。				【到達目標】 自立した生活を支えるための視点について理解できる。 事例について考え、クラスで共有できる。		
6	【授業内容】 現代の福祉理念 ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン、QOLなど			14	【授業内容】 介護における自立支援の理論② 事例検討		
	【到達目標】 社会福祉活動の歴史と背景を理解できる。 さまざまな社会福祉活動家とその活動内容について理解できる。				【到達目標】 これまでの授業を振り返り、疑問などを解消し、学習内容をより深めることができる。		
7	【授業内容】 社会福祉活動の歴史的経緯、意義、活動家について			15	【授業内容】 授業の振り返りとまとめ、前期試験、解答解説		
	【到達目標】 これまでの授業を振り返り、疑問などを解消し、学習内容をより深めることができる。				【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)		
8	【授業内容】 授業の振り返りとまとめ、中間試験、解答解説						
【特記事項】							
毎授業において、板書したことやパワーポイント等を必ず記録しましょう。 事例検討や演習等では、自分の意見の表明や他者への理解をお願いします。							

科目名 (英)	Comprehension of social system		必修 選択	年次	1年	担当教員	黒澤 芳恵
	社会の理解		授業 形態	講義	総単位 時間	30時間	開講区分 曜日・時間
学科・コース	介護福祉士科						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
本科目は高齢者や障害者の生活全般を支援する諸制度について学ぶ科目であり、利用者の生活を支えていくという観点から、必要な知識を身につけることを目的とした授業を行う。利用者を取り巻く環境や社会背景、日本の社会保障の基本的な考え方や具体的内容、サービス利用にかかわる制度・施策等について理解を深めてほしい。また、講義や演習を通して一人ひとりが考え、それぞれの法制度について実践の場で通用する知識として身につけてほしい。							
【到達目標】							
個人、家族、地域、社会のしくみと、地域における生活の構造についてを学び、生活と社会の関わりや自助・互助・共助・公助の展開について理解できる。日本の社会保障制度の基本的な考え方としくみ、歴史や変遷について理解するとともに、社会保障制度の現状と課題等を学ぶことができる。高齢者に関する福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容を理解し、高齢者福祉の現状と課題等を学ぶことができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
・「介護福祉士国家試験ワークブック2025上」中央法規 ・「見て覚える！介護福祉士国試ナビ2025」中央法規				ワークブックや国試ナビの次の範囲を読み、予習をしましょう。また授業後もノートやプリントを振り返るなどの復習をし、学んだ内容を身につけましょう。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 前期の授業の進め方について理解する。 生活の構成要素と現代社会の課題を理解できる。 【授業内容】 オリエンテーション 家庭生活の基本機能			9	【到達目標】 介護サービス利用までの過程について理解できる。 【授業内容】 介護保険制度② 介護保険制度の利用までの過程		
2	【到達目標】 家族、地域社会の集団や組織について学び、利用者とのかかわりについて理解できる。 【授業内容】 家族の概念、構造、役割 地域の概念、集団・組織の種類や役割、地域の課題			10	【到達目標】 介護保険給付の種類について理解できる。 各介護保険サービスの内容について理解し、述べることができる。 【授業内容】 介護保険制度③ 介護保険制度の保険給付、介護保険サービス		
3	【到達目標】 地域福祉の理念や推進することの重要性を認識できる。 地域共生社会、地域包括ケアの理念や取り組みを理解できる。 【授業内容】 地域共生社会の実現に向けた制度や施策			11	【到達目標】 介護保険制度における利用者負担のしくみや軽減措置について理解できる。 【授業内容】 介護保険制度④ 介護保険制度の利用者負担		
4	【到達目標】 社会保障制度の基本的な考え方を理解できる。 社会保障制度の目的、機能、範囲や種類を説明できる。 【授業内容】 社会保障制度の概念、機能、体系など			12	【到達目標】 介護保険制度の介護保険料の内容を理解できる。 介護保険制度の財源について説明できる。 【授業内容】 介護保険制度⑤ 介護保険制度における保険料、財源のしくみ		
5	【到達目標】 戦後から現代に至るまでの社会保障制度の歴史を整理できる。 近年行われている社会保障改革の方向性を理解できる。 【授業内容】 日本の社会保障制度の発達と歴史 近年の社会保障改革			13	【到達目標】 地域支援事業について種類、内容を理解できる。 介護保険制度に関わる各組織の種類と役割について説明できる。 【授業内容】 介護保険制度⑥ 介護保険制度における地域支援事業 公的、民間組織の種類と役割		
6	【到達目標】 日本の社会保障制度のしくみを理解できる。 社会保障制度を支える負担と給付について理解できる。 【授業内容】 社会保障の実施体制、しくみ(実施方式、給付、負担の方法など) 社会保障給付費の推移と現状、社会保障全体の課題など			14	【到達目標】 介護保険制度にかかわる専門職の役割について理解する。 介護保険制度改正の流れと動向について整理することができる。 【授業内容】 介護保険制度⑦ 介護保険制度における専門職の役割 介護保険制度の改正のまとめ		
7	【到達目標】 高齢者保健福祉の歴史、課題、法体系について理解できる。 【授業内容】 高齢者保健福祉の動向 高齢者保健福祉に関連する法体系			15	【到達目標】 前期の授業を振り返り、疑問などを解消し、学習内容をより深めることができる。 【授業内容】 前期試験、解答解説、授業の振り返り		
8	【到達目標】 これまでの授業を振り返り、学習を深め、問題に答える。 介護保険制度創設までの過程、目的、理念等を理解できる。 【授業内容】 中間試験、解答解説 介護保険制度① 介護保険制度の基本的概念			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							
知識を積み重ねていくことが重要な科目です。小さな疑問でも早めに解消できるよう、どんなことでも質問してください。							

科目名 (英)	Relationships and Communication 人間関係とコミュニケーション	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	馬島佳菜恵	
		授業 形態	講義	総単位 時間	30時間	開講区分 曜日・時間	後期 水曜 2限	
学科・コース	介護福祉士科							
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 特別養護老人ホームにて介護職員として働き、役職者としての経験								
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)								
介護職による支援は利用者と多職種との関係づくりから始まります。上記の実務経験を活かし、ここでは人間を多面的に理解することを基盤に、他者との関係づくりのために必要なコミュニケーションや、介護実践におけるチームマネジメントについて学びます。								
【到達目標】 コミュニケーションについて知識と理解を深め、利用者に対してあるいは多職種協働で進めるチームケアにおいて、円滑なコミュニケーションをとるための基礎的なコミュニケーション能力やチームマネジメントを学ぶ。								
【使用教科書・教材・参考書】 「介護福祉士国家試験ワークブック上」中央法規 「見て覚える！介護福祉士国試ナビ」中央法規					【授業外における学習】 聞き取れない用語等は予習をし、授業後は配布資料をもとに復習を行う。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要			
1	【到達目標】 お互いの自己紹介を行いコミュニケーションを図る 介護とは人間らしさの象徴であることを理解する 【授業内容】 ・オリエンテーション ・人間らしさのはじまり			9	【到達目標】 人間関係の発展や後退とコミュニケーションのあり方について学ぶ 【授業内容】 ・対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション			
2	【到達目標】 人間関係のなかで自分と他者を理解するということを学ぶ 【授業内容】 ・自分を形成する2つの要素 ・自分を理解するとは			10	【到達目標】 対人援助を展開していくための援助的人間関係を形成していく基本を学ぶ 【授業内容】 ・対人援助における基本的態度			
3	【到達目標】 人間関係のなかで自分と他者を理解するということを学ぶ 【授業内容】 ・他者を理解するとは			11	【到達目標】 介護福祉士が援助関係を形成していく際の基本的な方法について学ぶ 【授業内容】 ・援助的人間関係の形成とバISTECKの7つの原則			
4	【到達目標】 人の発達にともなう、人間関係の広がりを学ぶ 人はどのように他者や集団と関わりながら成長するのかを学ぶ 【授業内容】 ・発達心理学や社会心理学からみた人間関係			12	【到達目標】 組織の存在とコミュニケーションの特徴や組織における情報の流れを理解する 【授業内容】 ・組織の条件とコミュニケーションの特徴 ・組織における情報の流れ			
5	【到達目標】 人間関係の形成や発展におけるストレスについて学び、適切に対処する方法を身につける 【授業内容】 ・人間関係とストレス			13	【到達目標】 組織においてどのようなコミュニケーションが求められるかを学ぶ 【授業内容】 組織において求められるコミュニケーション			
6	【到達目標】 ・コミュニケーションの特性や構造について学ぶ 【授業内容】 ・コミュニケーションの概念と基本構造			14	【到達目標】 組織とそこでのコミュニケーションの特徴について考える アイデアを出し合うためにブレインストーミングを体験する 【授業内容】 組織のコミュニケーションについてーブレインストーミング			
7	【到達目標】 言語的コミュニケーションや非言語的コミュニケーションについて学ぶ 【授業内容】 ・コミュニケーションの手段			15	【到達目標】 これまでの授業を振り返り学習を深め、問題に答えることができる。 分からない問題を洗い出し、自分の課題を見つけることができる。 【授業内容】 これまでの授業の振り返り、期末試験、解答解説			
8	【到達目標】 これまでの授業を振り返り学習を深め、問題に答えることができる。 分からない問題を洗い出し、自分の課題を見つけることができる。 【授業内容】 これまでの授業の振り返り、中間試験、解答解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価				
【特記事項】 重要なポイントは必ずメモをとること。 配布資料を振り返りに活用すること。								

科目名 (英)	Professional Training Lecture 職業人教育	必修 選択	必須	年次	1年	担当教員	田村・内藤
学科・コース	介護福祉士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日・3限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
看護師、介護福祉士として就業した専任教員として、社会に出た時に活躍できる人材となるよう授業を進めていく。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
”職業人教育”とは、社会に出た時に即戦力として活躍できるような人材を育成すること。授業内では、個人ワークやグループワークを行うことがある。社会に出た時は、専門知識・技術以外にも人とのコミュニケーションが大事になりますので、ひとりひとりが積極的・協力的に参加することが大切である。どんな仕事でも一人では行えません。チームで行うことが大半ですので、職業人になるための『身構え』『気構え』『心構え』を学ぶ。							
【到達目標】							
①社会人として求められる立ち振る舞い(挨拶・返事・言葉遣い・環境整備・時間管理)について理解するとともに、日常生活でも実践できるようになる。							
②振り返るを重ねることで、自分の気持ちを文字で書いて伝えることができる。							
③学生生活のスケジュール管理を自らできるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
Hand book of Life style							
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 1年間の流れを知ることができる 【内容】 オリエンテーション 委員会の活動4月・5月			9	【到達目標】 本番を想定して、シミュレーションをしチームで考える 【内容】 オレンジカフェシミュレーション		
2	【到達目標】 オレンジカフェを知る 【内容】 2年生から引継ぎをうける			10	【到達目標】 初めてのオレンジカフェを実施することができる 【内容】 オレンジカフェ本番		
3	【到達目標】 オレンジカフェを知る 【内容】 2年生から引継ぎをうける			11	【到達目標】 レクリエーションを考えよう!! 【内容】 グループを決め、計画書を立てる		
4	【到達目標】 クラス運営を考えよう!! 係決め 【内容】 クラス会議 クラス目標について			12	【到達目標】 レクリエーションを考えよう!! 【内容】 グループを決め、計画書を立てる		
5	【到達目標】 オレンジカフェの計画を立てよう!! 【内容】 チーム発表。役割分担			13	【到達目標】 レクリエーションを考えよう!! 【内容】 レクリエーション発表		
6	【到達目標】 オレンジカフェの計画を立てよう!! 【内容】 チーム発表。役割分担			14	【到達目標】 本番を想定して、シミュレーションをしチームで考える 【内容】 オレンジカフェシミュレーション		
7	【到達目標】 オレンジカフェに向けて、地域包括支援センターの仕組みをしる 【内容】 白菊様による認知症サポーター養成講座を受講			15	【到達目標】 半期の振り返り 【内容】 定期テスト		
8	【到達目標】 半期の振り返り 【内容】 定期テスト			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	Professional Training Lecture 職業人教育	必修 選択	必須	年次	1年	担当教員	田村・内藤
学科・コース	介護福祉士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 金曜日・3限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 看護師、介護福祉士として就業した専任教員として、社会に出た時に活躍できる人材となるよう授業を進めていく。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) ”職業人教育”とは、社会に出た時に即戦力として活躍できるような人材を育成すること。授業内では、個人ワークやグループワークを行うことがある。 社会に出た時は、専門知識・技術以外にも人とのコミュニケーションが大事になりますので、ひとりひとりが積極的・協力的に参加することが大切である。 どんな仕事でも一人では行えません。チームで行うことが大半ですので、職業人になるための『身構え』『気構え』『心構え』を学ぶ。							
【到達目標】 ①社会人として求められる立ち振る舞い(挨拶・返事・言葉遣い・環境整備・時間管理)について理解するとともに、日常生活でも実践できるようになる。 ②振り返るを重ねることで、自分の気持ちを文字で書いて伝えることができる。 ③学生生活のスケジュール管理を自らできるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 Hand book of Life style				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 1年間の流れを知ることができる 【内容】 後期の目標 委員会の活動			9	【到達目標】 オレンジカフェを実施することができる 【内容】 オレンジカフェ本番		
2	【到達目標】 本番を想定して、シミュレーションをしチームで考える 【内容】 オレンジカフェシミュレーション			10	【到達目標】 事例検討をする 【内容】 実習先での事例を振り返る		
3	【到達目標】 オレンジカフェを実施することができる 【内容】 オレンジカフェ本番			11	【到達目標】 本番を想定して、シミュレーションをしチームで考える 【内容】 オレンジカフェシミュレーション		
4	【到達目標】 事例検討をする 【内容】 実習先での事例を振り返る			12	【到達目標】 オレンジカフェを実施することができる 【内容】 オレンジカフェ本番		
5	【到達目標】 本番を想定して、シミュレーションをしチームで考える 【内容】 オレンジカフェシミュレーション			13	【到達目標】 オレンジカフェを実施することができる 【内容】 オレンジカフェ本番		
6	【到達目標】 オレンジカフェを実施することができる 【内容】 オレンジカフェ本番			14	【到達目標】 事例検討をする 【内容】 実習先での事例を振り返る		
7	【到達目標】 半期の振り返り 【内容】 相手に伝える			15	【到達目標】 半期の振り返り 【内容】 相手に伝える		
8	【到達目標】 本番を想定して、シミュレーションをしチームで考える 【内容】 オレンジカフェシミュレーション			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	Basic nursing care	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	田村仁美
	介護の基本 I						
学科・コース	介護福祉士科	授業 形態	座学	総単位 時間	60時間	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 1,2限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
特別養護老人ホームに就業し、介護福祉士・介護支援専門員を経験。							
【学習内容】							
介護の理念や倫理、身体介護や生活支援の基本技術、心理的支援の重要性を学びます。また、ケアプランの作成や介護記録の書き方、多職種連携の重要性、事故防止や感染症予防の安全管理についても学びます。さらに、介護技術の進歩や地域包括ケアシステム、介護政策の最新動向についても触れ、実践的な知識を身につけます。							
【到達目標】							
介護の理念と倫理の理解、基本技術の習得、心理的支援の実践、ニーズに基づくケアプランの作成、多職種連携の理解、安全管理の知識、介護の最新動向への適応です。これらを達成することで、質の高い介護サービスを提供できる職業人へ。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
見て覚える 介護福祉士国試ナビ(中央法規) 介護福祉士受験ワークブック上(中央法規)				介			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 介護の基本 授業の年間イメージをつける 【授業内容】 オリエンテーション「介護とは？」			9	【到達目標】 介護が必要とする人の本当の望みを考える 【授業内容】 生活の個性・多様性		
2	【到達目標】 介護職とは？を考える 【授業内容】 介護の歴史			10	【到達目標】 介護が必要とする人の本当の望みを考える 【授業内容】 高齢者の生活		
3	【到達目標】 介護職とは？を考える 【授業内容】 理念			11	【到達目標】 介護が必要とする人の本当の望みを考える 【授業内容】 障害者の生活		
4	【到達目標】 介護職とは？を考える 【授業内容】 機能・役割			12	【到達目標】 介護が必要とする人の本当の望みを考える 【授業内容】 家族介護者		
5	【到達目標】 介護職とは？を考える 【授業内容】 倫理			13	【到達目標】 介護が必要とする人の本当の望みを考える 【授業内容】 9-14を振り返る		
6	【到達目標】 介護職とは？を考える 【授業内容】 2-6を振り返る			14	【到達目標】 介護が必要とする人の本当の望みを考える 【授業内容】 9-14を振り返る		
7	【到達目標】 介護職とは？を考える 【授業内容】 2-6を振り返る			15	【到達目標】 試験を行い、理解度を測る 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 試験を行い、理解度を測る 【授業内容】 中間試験			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数 100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	Basic nursing care	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	田村仁美
	介護の基本Ⅰ						
学科・コース	介護福祉士科	授業 形態	座学	総単位 時間	30時間	開講区分 曜日・時間	後期 金曜日2限
【実務経験】（担当する授業科目に関連した実務経験）							
特別養護老人ホームに就業し、介護福祉士・介護支援専門員を経験。リーダー職に就くこともあり、現場とマネジメント両方を経験している							
【学習内容】							
介護の理念や倫理、身体介護や生活支援の基本技術、心理的支援の重要性を学びます。また、ケアプランの作成や介護記録の書き方、多職種連携の重要性、事故防止や感染症予防の安全管理についても学びます。さらに、介護技術の進歩や地域包括ケアシステム、介護政策の最新動向についても触れ、実践的な知識を身につけます。							
【到達目標】							
介護の理念と倫理の理解、基本技術の習得、心理的支援の実践、ニーズに基づくケアプランの作成、多職種連携の理解、安全管理の知識、介護の最新動向への適応です。これらを達成することで、質の高い介護サービスを提供できる職業人へ。							
【使用教科書・教材・参考書】 見て覚える 介護福祉士国試ナビ（中央法規） 介護福祉士受験ワークブック上（中央法規）				【授業外における学習】			
介							
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 他の職種と連携する 【授業内容】 他職種を知る			9	【到達目標】 介護を必要とする人の生活を支える仕組みを知る 【授業内容】 事業所・施設形態を知る		
2	【到達目標】 他の職種と連携する 【授業内容】 他職種の業務内容を知る			10	【到達目標】 介護を必要とする人の生活を支える仕組みを知る 【授業内容】 事業所・施設形態を知る		
3	【到達目標】 他の職種と連携する 【授業内容】 他職種の役割を知る			11	【到達目標】 介護を必要とする人の生活を支える仕組みを知る 【授業内容】 フォーマルインフォーマルシステム		
4	【到達目標】 介護を必要とする人の生活を支える仕組みを知る 【授業内容】 地域連携の目的を仕組みを知る			12	【到達目標】 介護職のリスクマネジメントを考える 【授業内容】 介護従事者を守る法制度		
5	【到達目標】 介護を必要とする人の生活を支える仕組みを知る 【授業内容】 事業所・施設形態を知る			13	【到達目標】 介護職のリスクマネジメントを考える 【授業内容】 介護従事者の心身の健康管理		
6	【到達目標】 介護を必要とする人の生活を支える仕組みを知る 【授業内容】			14	【到達目標】 9－13回を振り返り、再度理解する 【授業内容】 振り返り		
7	【到達目標】 1－6回を振り返り、再度理解する 【授業内容】 振り返り			15	【到達目標】 試験を行い、理解度を測る 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 試験を行い、理解度を測る 【授業内容】 中間試験			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数 100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）			
【特記事項】							

科目名 (英)	communication technology	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	高橋 亜希子
	コミュニケーション技術	授業 形態	座学	総単位 時間	30時間	開講区分 曜日・時間	前期 木曜 2限
学科・コース	介護福祉士科						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
特別養護老人ホームに併設されている「ディサービス」に勤務したのち、現在は「リハビリテーション病院」で看護助手として従事。							
また、「初任者研修」を受講する受講生の授業で「コミュニケーション」を担当。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
○全ての介護の始まりは、「コミュニケーションから始まる」ことを学ぶ為に、実践的な授業を行う。							
○コミュニケーションは、「利用者様」とだけ行おうものではなく、自分に関わる全ての人とコミュニケーションが必要ということを理解する							
【到達目標】							
常に実践を意識し、「実習」に向けて、利用者様や職員の方たちと円滑なコミュニケーションを図ることができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
ワークブック(上)2025 国試ナビ2025							
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 介護におけるコミュニケーションの意義と目的を理解することができる。			9	【到達目標】 コミュニケーション態度に関する基本技術を理解する。		
	【授業内容】 なぜ「コミュニケーション」が重要なのかを理解するためにグループで考え発表する。				【授業内容】 「傾聴」と「共感」の技法をグループで行う。		
2	【到達目標】 介護におけるコミュニケーションの意義と目的を理解することができる。			10	【到達目標】 コミュニケーション態度に関する基本技術を理解する。		
	【授業内容】 なぜ「コミュニケーション」が重要なのかを理解するためにグループで考え発表する。				【授業内容】 「受容」と「共感」の大切さを理解し、グループで行う。		
3	【到達目標】 介護福祉職の職務とコミュニケーションの特徴を理解する。			11	【到達目標】 コミュニケーション態度に関する基本技術を理解する。		
	【授業内容】 介護におけるコミュニケーションの役割をグループで考え発表する。				【授業内容】 「話を聴く」時の態度をグループで確認する。		
4	【到達目標】 介護福祉職の職務とコミュニケーションの特徴を理解する。			12	【到達目標】 言語コミュニケーションの機能を理解する。		
	【授業内容】 介護におけるコミュニケーションの役割をグループで考え発表する				【授業内容】 「言語的コミュニケーション」とは何か、グループで考え発表する。		
5	【到達目標】 介護福祉職の職務とコミュニケーションのかかわりを理解する。			13	【到達目標】 非言語・準言語コミュニケーションを理解する。		
	【授業内容】 援助関係を意識した対象者とのコミュニケーションをグループで考え、発表する。				【授業内容】 「非言語・準言語コミュニケーション」とは何か、グループで考え発表する。		
6	【到達目標】 介護福祉職の職務とコミュニケーションのかかわりを理解する。			14	【到達目標】 「期末テスト」に向けて授業の振り返り、復習することで理解を深めることができる。		
	【授業内容】 援助関係を意識した対象者とのコミュニケーションをグループで考え、発表する。				【授業内容】 事例検討を行うことで、今までの授業の振り返りを行う。		
7	【到達目標】 「中間テスト」に向けて振り返り、復習することで理解を深めることができる。			15	【到達目標】 学びの振り返り		
	【授業内容】 事例検討を行うことで、今までの授業の振り返りをおこなう				【授業内容】 期末テスト		
8	【到達目標】 学びの振り返り			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
	【授業内容】 中間テスト						
【特記事項】							

科目名 (英)	communication technology	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	高橋 亜希子
	コミュニケーション技術	授業 形態	座学・実技	総単位 時間	30時間	開講区分 曜日・時間	後期 木曜 4限
学科・コース	介護福祉士科						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
特別養護老人ホームに併設されている「ディサービス」に勤務したのち、現在は「リハビリテーション病院」で看護助手として従事。							
また、「初任者研修」を受講する受講生の授業で「コミュニケーション」を担当。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
○全ての介護の始まりは、「コミュニケーションから始まる」ことを学ぶ為に、実践的な授業を行う。							
○コミュニケーションは、「利用者様」とだけ行おこなうものではなく、自分に関わる全ての人とコミュニケーションが必要ということを理解する							
【到達目標】							
常に実践を意識し、「実習」に向けて、利用者様や職員の方たちと円滑なコミュニケーションを図ることができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 目的別のコミュニケーション技術を理解する 【授業内容】 利用者の「意欲」を高めるためのコミュニケーションとは何か？グループで考え発表する。			9	【到達目標】 様々なコミュニケーションの障害がある人への支援を理解する。 【授業内容】 うつ病や統合失調症の方のコミュニケーションをグループで考え発表する。		
2	【到達目標】 様々なコミュニケーションの障害がある人への支援を理解する。 【授業内容】 聴覚障害・視覚障害の方のコミュニケーションをグループで考え発表する。			10	【到達目標】 様々なコミュニケーションの障害がある人への支援を理解する。 【授業内容】 知的障害・発達障害の方のコミュニケーションをグループで考え発表する。		
3	【到達目標】 様々なコミュニケーションの障害がある人への支援を理解する。 【授業内容】 構音障害の方のコミュニケーションをグループで考え発表する。			11	【到達目標】 様々なコミュニケーションの障害がある人への支援を理解する。 【授業内容】 高次脳機能障害の方のコミュニケーションをグループで考え発表する。		
4	【到達目標】 様々なコミュニケーションの障害がある人への支援を理解する。 【授業内容】 失語症の方のコミュニケーションをグループで考え発表する。			12	【到達目標】 介護におけるチームのコミュニケーションを理解する。 【授業内容】 多職種連係を意識したコミュニケーションとは何か？グループで考え発表する。		
5	【到達目標】 様々なコミュニケーションの障害がある人への支援を理解する。 【授業内容】 認知症の方のコミュニケーションをグループで考え発表する。			13	【到達目標】 報告・連絡・相談の技術を習得する。 【授業内容】 「報連相」の流れやタ良いイメージとは何か？をグループで考え発表する。		
6	【到達目標】 様々なコミュニケーションの障害がある人への支援を理解する。 【授業内容】 認知症の方のコミュニケーションをグループで考え発表する。			14	【到達目標】 「期末テスト」に向けて振り返り、復習することで理解を深めることができる。 【授業内容】 事例検討を行うことで、今までの授業の振り返りをおこなう。		
7	【到達目標】 「中間テスト」に向けて振り返り、復習することで理解を深めることができる。 【授業内容】 事例検討を行うことで、今までの授業の振り返りをおこなう。			15	【到達目標】 【授業内容】 期末テスト		
8	【到達目標】 【授業内容】 中間テスト			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数 100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	Nursing care skills	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	窪田・澤田・内藤
	生活援助技術	授業 形態	演習	総単位 時間	120時間	開講区分 曜日・時間	前期 月曜12限/3,4限
学科・コース	介護福祉士科						
【実務経験】							
介護福祉士として、就業した講師、専任教員が技術、知識を学生に還元し、プロの介護福祉士の育成を行う。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
・基礎的な介護技術を得得すると共に講師の現場経験を生かし、実際の介護現場でのリスク管理や応用的な技術を取り入れた授業を行うことで、介護技術を学ぶ楽しさや安全の重要性、ご利用者の気持ちや能力に合わせた介助を提供することの大切さなどを学ぶ。 ・ただ介助を行うのではなく「なぜ現在の介助方法で行う必要があるのか」というエビデンス(根拠)を示せる介護技術を学ぶ。							
【到達目標】							
・ご利用者ならびに介護者の安全を確保した上で、ご利用者の気持ちに寄り添った介護実践を提供することができる。 ・一つ一つの介助には「なぜ、そのような介助を行うのか」という根拠を明確に説明できる介助を行うことができる。 ・全て介助者が行うのではなく、ご利用者の「できること」を見つけ、それを支援することができる観察力を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
介護福祉士国家試験受験ワークブック上下(中央法規) 講師作成資料、実習室				日常生活の中で、高齢者や障害のある方を見かけた際に自分はどうな支援ができるかを考えることで介助について興味関心を養う。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 ①生活支援技術の授業を受ける上でのルールを理解できる。手洗いの重要性を理解し、正しい手洗いを実践することができる ②生活支援の基本的な考えを理解することができる。感染予防の重要性、実践に向けた感染対策を知る。 【授業内容】 ①オリエンテーション(授業と実習室の使い方・感染症予防(専門職としての手指衛生方法) ②介護福祉士としてその人の生活を理解し、その人らしく生きること考える。事例をもとにした感染対策や感染経路を学ぶ。			9	【到達目標】 ①ボディメカニクスを活用し、力を使わない安全な介助方法を身に着けることができる。 ②根拠に基づいた手順書を作成することができる。 【授業内容】 ①ボディメカニクスを活用したベッドや車椅子への介助 ②事例を用いて、個性性と根拠のある手順書を教科書や資料を見ながらそれぞれが考えることができる。		
2	【到達目標】 ①複数名にてシーツを張り替えることができる 1人でシーツをはき上げることができる ②加齢に伴う身体機能の変化/ボディメカニクス身支度(着替え)の重要性を理解できる。 【授業内容】 ①複数名でのシーツ交換/1人でのシーツ交換 ②事例を用いて高齢者にはどんな身体的変化がみられるか考える/ボディメカニクスとはなにか理解し麻痺のある方を着替えの仕方を理解する。			10	【到達目標】 ①福祉用具を活用し、ご利用者と介護者双方に負担の少ない移乗介助の方法を学ぶ ②根拠に基づいた手順書を作成することができる。 【授業内容】 ①福祉用具(スライディングボード)床走行式リフトを活用した移乗介助 ②事例を用いて、個性性と根拠のある手順書を教科書や資料を見ながらそれぞれが考えることができる。		
3	【到達目標】 ①ベッド上での体位変換を学ぶ/ベッドからの起き上がる際の介助方法を学ぶ ②身支度(整容)の重要性を理解できる。/移動援助(立ち上がり)の留意点を理解できる。 【授業内容】 ①ベッド上での体位変換と介助/ベッドからの起き上がりの支援と介助 ②整容とは何か、整容の必要性効果を考える 移動援助(立ち上がり)の留意点安全性について考える			11	【到達目標】 ①事例を基に自分たちが考えた移乗介助方法にて実践し、安全面や注意点、体への負担などがないかを検証することができる。 ②利用者さんを安全に車椅子へ移乗するための知識を身につける。 【授業内容】 ①手順に基づいた介助方法の実践(事例を基に自分たちで作成した移乗介助の手順に沿って実践する) ②車椅子へ移乗・位置、ポジション		
4	【到達目標】 ①自立度の高い人への介助方法を学ぶ。一部介助及び全介助が必要な方への介助方法を学ぶ ②1移動援助(歩行)の重要性や危険性について理解できる。 【授業内容】 ①自立度の高い人への介助/介助が必要な人への着替えの介助 ②歩行時の危険性や麻痺や拘縮の歩行援助			12	【到達目標】 ①車椅子の操作方法及び車椅子で生活する感覚や気持ちを考えることができる ②1家事支援理解し利用者さんにとってなぜその支援が大切か理解できる。 クーリングオフ制度について理解 【授業内容】 ①車イスの操作方法/車椅子体験と介助 ②家事支援とクーリングオフ		
5	【到達目標】 ①イス及びベッドから一人で起き上がる際の介助方法を学ぶ イス及びベッドから介助にて起き上るさいの介助方法を学ぶ ②住み慣れた地域での継続した生活の重要性/快適な室内環境とはなにか 視覚障害のある方が安全に生活するためには何が必要か理解できる。 【授業内容】 ①イス及びベッドからの立ち上がり支援と介助杖を使用した歩行と介助 ②年住み慣れた家や地域安全に生活するためにのサポート視覚障害者への介助			13	【到達目標】 ①②様々な福祉用具の紹介や使い方を学ぶとともに、実際に体験することで、専門職としてご利用者に最適な支援が行えるよう見識を深める 【授業内容】 ①様々な福祉用具の紹介と体験 ②浴衣・寝巻の着方を知る		
6	【到達目標】 ①実際に白杖を使用し、視覚障害のある方の世界観を知ると共に視覚障害のある方への介助方法を学ぶ ②衣服の裁縫、被服のアイロン掛けの支援の知識と実践を行うことができる。 【授業内容】 ①白杖を使用した視覚障害体験/障害のある人への介助 ②実際にズボンの裾上げをしてみよう			14	【到達目標】 ①②9回から13回までの授業内容を振り返り、介助を行なう根拠と適した技術を改めて確認・実践することで専門職としての介護技術を身に着ける 【授業内容】 ①②前期9回～13回までの振り返り		
7	【到達目標】 ①②6回までの授業を振り返り、事例に対し応用を活かして対応することができる 【授業内容】 ①②前期1回～6回までの振り返り			15	【到達目標】 ①②これまでの授業を振り返り、試験に臨むことができる 【授業内容】 ①②定期試験(実技試験)		
8	【到達目標】 ①②これまでの授業を振り返り、試験に臨むことができる 【授業内容】 ①②前期中間試験(実技試験)			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	Nursing care skills	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	窪田・澤田・内藤
	生活援助技術	授業 形態	演習	総単位 時間	120時間	開講区分 曜日・時間	後期 月曜1,2限/3,4限
学科・コース	介護福祉士科						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
介護福祉士として、介護現場での経験と技術及び知識を活かし、根拠ある介護実践が提供できる専門職の育成を行う。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
・基礎的な介護技術を習得すると共に講師の現場経験を生かし、実際の介護現場でのリスク管理や応用的な技術を取り入れた授業を行うことで、介護技術を学ぶ楽しさや安全の重要性、ご利用者の気持ちや能力に合わせた介助を提供することの大切さなどを学ぶ。 ・ただ介助を行うのではなく「なぜ現在の介助方法でおこなうのか」というエビデンス(根拠)を示せる介護技術を学ぶ。							
【到達目標】							
ご利用者ならびに介護者の安全を確保した上で、ご利用者の気持ちに寄り添った介護実践を提供することができる。 一つ一つの介助には「なぜ、そのような介助を行うのか」という根拠を明確に説明できる介助を行うことができる。 全て介助者が行うのではなく、ご利用者の「できること」を見つけ、それを支援することができる観察力を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
介護福祉士国家試験受験ワークブック上下(中央法規) 講師作成資料、実習室				日常生活の中で、高齢者や障害のある方を見かけた際に自分はどうな支援ができるかを考える。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 ①前期の授業を振り返り、配慮すべき点や安全の確保などを復習する ②食事介助を安全に行うための知識を身につける。 【授業内容】 ①前期授業の振り返り ②食事介助の際リスクを事例を用いて考える。			9	【到達目標】 ①プライバシーに配慮したトイレ及びポータブルトイレ介助を行なうことができる ②ストーマによる排便ケアを理解する。便の色や形、尿の色や量による異常を理解する 【授業内容】 ①トイレ誘導及びPTイレ介助 ②ストーマ使用の注意点、便破棄の方法		
2	【到達目標】 ①実際に食事介助を行なうことで、介助される側、介助を行なう側のリスクと予防策を知る ②疾患のある利用者さんが安全に食事をするための知識を身につける。 【授業内容】 ①食事介助(座った状態及びベッド上での介助 ②視覚障害・誤嚥性肺炎の方の食事介助を事例を通して考えることができる。			10	【到達目標】 ①ご利用者の羞恥心に配慮しつつ、衛生面や感染症のリスクに注意しながらオムツ交換を行うことができる ②休息の必要性や睡眠について理解することができる 【授業内容】 ①おむつ交換 ②休息と睡眠		
3	【到達目標】 ①部分清拭、全身清拭とおし身体の清潔保持のポイントを知る ②入浴の目的を理解し安全な入浴を実施できる知識を身につける 【授業内容】 ①清拭の介助(部分清拭、全身清拭) ②入浴における目的と効果を考え、入浴時における危険を考える			11	【到達目標】 ①安全及び安楽な姿勢を考慮したベッド上での着脱を行うことができる ②看取りとは何か、ターミナルケアを理解する 【授業内容】 ①寝ている状態での着替え ②人生の最終段階の人や家族についての関わり方を学ぶ。		
4	【到達目標】 ①手浴、足浴を実際に行い、部分的な入浴とその効果を知る ②清拭の介助・機械浴やシャワー浴はどんな目的か理解する 【授業内容】 ①手浴、足浴の介助 ②清拭・機械浴の特徴やシャワー浴の特徴や留意点を考える			12	【到達目標】 ①安全及び安楽な姿勢を考慮したベッド上でのシーツ交換を行うことができる ②看取り時の介護を理解する、エンゼルケアを理解する。 【授業内容】 ①寝ている状態でのシーツ交換 ②看取り時における観察のポイントやエンゼルケアについて		
5	【到達目標】 ①実際に入浴(洗身、入浴)介助の体験をおとし、介助される側と介助する側の安全面とリスクを知る ②排泄とはなにか、排泄方法や配慮の必要性を考え理解する。 【授業内容】 ①入浴介助 ②多様な排泄方法があるが個性の排泄方法なのか考える。②			13	【到達目標】 ①ご利用者への最期のケアを意識し、身体の清潔から着替えまでの一連のケアをおとして実践することができる。 ②救急対応とは何か理解できる 【授業内容】 ①看取りの介助(常時静養が必要な方を含む) ②救急対応が必要な人はどんな人か、救急対応の実際をワークを通して学ぶ		
6	【到達目標】 ①実際に外出を行い、『介助される側』、『介助する側』の留意点を知る ②排泄とはなにか、排泄方法や配慮の必要性を考え理解する。 【授業内容】 ①外出介助(氷川神社) ②多様な排泄方法があるが個性の排泄方法なのか考える。			14	【到達目標】 ①②9回から13回までの授業内容を振り返り、介助を行なう根拠と適した技術を改めて確認・実践することで専門職としての介護技術を身に着ける 【授業内容】 ①②前期9回～13回までの振り返り		
7	【到達目標】 ①②6回までの授業を振り返り、事例に対処応用を活かして対応することができる 【授業内容】 ①②前期1回～6回までの振り返り			15	①②これまでの授業を振り返り、試験に臨みことができる 【授業内容】 ①②定期試験(実技試験)		
8	【到達目標】 ①②これまでの授業を振り返り、試験に臨みことができる 【授業内容】 ①②前期中間試験(実技試験)			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	Care Work Process	必修 選択	必須	年次	1年	担当教員	田母神 由美
	介護過程	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 火 曜 3 限
学科・コース	介護福祉士科						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 高齢者施設(入所、通所、在宅)や障害者施設(共同生活支援、就労支援、相談業務)など37年の実務経験を活かし現在も現場で支援を継続し行っている。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 介護が必要とされる対象者自身が【望む生活】、【よりよい人生】を実現するため、専門的知識を活用し生活上の課題解決に向けて取り組むプロセスを学ぶ科目である。担当教員が実際に日常で起きている様々な事例や知識を生かし伝えることで、何を考えどのような生活を送りたいのかなど、相手の想いに寄り添い状態に合わせた自立支援の方法を理解してほしい。							
【到達目標】 ・介護過程の目的、意義を理解することができる。 ・介護過程を展開するための情報共有の方法や各職種の役割を理解することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・介護福祉士養成講座9「介護過程」 中央法規 ・介護福祉士 受験ワークブック 2025下 中央法規				【授業外における学習】 専門的用語や小テストの内容など習得できているかを確認し授業に備える。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 介護になぜ介護過程が必要なのか、相手を知ることの大切さを理解することができる 【授業内容】 介護過程の意義と目的			10	【到達目標】 ICF の考え方を活用した情報収集の方法を理解し、記載方法を理解することができる 【授業内容】 ICFの活用方法 事例①		
2	【到達目標】 生活状態を知ることに必要な情報収集とは何かを学び、全体像の仕組みを理解することができる 【授業内容】 介護過程の全体像			11	【到達目標】 アセスメントとは何かを理解し、望む生活を実現するための方法を理解することができる 【授業内容】 アセスメントの視点		
3	【到達目標】 生活は現時点だけではなく、過去の生活の上に成立ち、現在の延長線上に未来がある、自分らしく生きる意味を理解できる 【授業内容】 生活支援における介護過程の必要性			12	【到達目標】 生活像からイメージを描き、アセスメントの視点を整理し関連づける方法を理解することができる 【授業内容】 アセスメントの実際		
4	【到達目標】 書式の名称や記載内容を確認し理解することができる 【授業内容】 介護福祉分野で使用する書式①			13	【到達目標】 情報収集した内容を整理し記載する方法を理解することができる 【授業内容】 情報の解釈・統合化		
5	【到達目標】 書類の種類を整理、理解し実際に記述することができる 【授業内容】 介護福祉分野で使用する書式②			14	【到達目標】 自立、快適、安全の部分にどのような生活課題が生じているのかを検討し理解することができる 【授業内容】 生活課題の明確化		
6	【到達目標】 記載情報を確認し共通理解する大切さを理解することができる 【授業内容】 介護福祉分野で使用する書式③			15	【到達目標】 前期の授業で学んだ理解度を確認し、不明な点は再度確認する 【授業内容】 定期試験・前期授業の振り返り		
7	【到達目標】 介護過程の展開を示す4つのプロセス、それぞれの意味を理解することができる 【授業内容】 介護過程の展開						
8	【到達目標】 介護過程の必要性、仕組みを理解することができる 【授業内容】 介護過程のまとめ・中間テスト			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	Care Work Process	必修 選択	必須	年次	1年	担当教員	田母神 由美
	介護過程	授業 形態	講義	総単位 時間	60	開講区分 曜日・時間	後 期 火 曜 3限 ・ 4 限
学科・コース	介護福祉士科						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
高齢者施設(入所、通所、在宅)や障害者施設(共同生活支援、就労支援、相談業務)など37年の実務経験を活かし現在も現場で継続して支援を行っている。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
介護が必要とされる対象者自身が【望む生活】、【よりよい人生】を実現するため、専門的知識を活用し生活上の課題解決に向けて取り組むプロセスを学ぶ科目である。担当教員が実際に日常で起きている様々な事例や知識を生かし伝えることで、何を考えどのような生活を送りたいのかなど、相手の想いに寄り添い状態に合わせた自立支援の方法を理解してほしい。							
【到達目標】							
・介護過程の目的、意義を理解することができる・介護過程を展開する一連のプロセスを理解することができる。 ・介護過程を展開するための情報共有の方法や各職種の役割を理解することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
・介護福祉士養成講座9「介護過程」 中央法規 ・介護福祉士 受験ワークブック 2025下 中央法規				専門的用語や小テストの内容など習得できているかを確認し授業に備える。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 個別ケアの提供における介護計画の立案方法について学び、記述方法を理解することができる 【授業内容】 介護計画の立案① 様式1			9	【到達目標】 ケアマネジメントの理念や目的、構成要素について学び、全体像を理解することができる 【授業内容】 介護過程とケアマネジメントの重要性 事例Aさん 様式1		
2	【到達目標】 介護計画における介護目標の必要性和設定方法について理解することができる 【授業内容】 介護計画の立案② 様式1			10	【到達目標】 個別援助計画はケアプランを受けて、その目標を達成するためにより具体的に専門的な計画を立案する方法を理解することができる 【授業内容】 ケアプランと個別援助計画の関係性 事例Aさん 様式1		
3	【到達目標】 5W1Hについて確認し記述方法を理解することができる 【授業内容】 介護計画の立案③ 様式1			11	【到達目標】 チームアプローチにおける介護福祉士の役割と重要性を理解し、連携が必要な他職種について理解することができる 【授業内容】 チームアプローチの意義 事例Aさん 様式2		
4	【到達目標】 介護過程における実施の意義と留意点を理解することができる 【授業内容】 介護の実施 様式2			12	【到達目標】 様々な福祉現場で他職種との連携がどのような場面で必要かを考え、チームアプローチの必要性を理解することができる 【授業内容】 チームアプローチの実際 事例Aさん 様式2		
5	【到達目標】 介護の実践の場において、実践の証明として貴重な業務である記録について理解することができる 【授業内容】 記録の実施 様式2			13	【到達目標】 情報収集やアセスメントを行う際の留意点などを理解することができる 【授業内容】 事例Aさん 様式2 まとめ		
6	【到達目標】 支援することにより生活課題が解決に向かっているのかを確認する方法を理解することができる 【授業内容】 1次実習に向けて 評価の意義と目的 様式2			14	【到達目標】 実習時に作成する書式を再確認し記載方法を理解することができる 【授業内容】 2次実習に向けての確認		
7	【到達目標】 心身状態を観察する方法を理解し、情報を共有する介護チームとの連携の重要性を理解することができる 【授業内容】 1次実習の振り返り 介護過程の展開 様式2 事例Aさん			15	【到達目標】 後期の授業で学んだ理解度を確認し、不明な点は再度確認する 【授業内容】 定期試験・後期授業の振り返り		
8	【到達目標】 介護過程の必要性、仕組みを理解することができる 【授業内容】 介護過程のまとめ・中間テスト 事例Aさん			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数 100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

Basic nursing care		必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	千葉 一馬
科目名 (英) 介護総合演習 I		授業 形態	演習	総単位 時間	30時間	開講区分 曜日・時間	前期 木曜 3限
学科・コース 介護福祉士科							
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
介護福祉士としての実務経験と、勤務先での実習指導での経験を活かし、介護実践に必要な知識・態度を養う学習を行う。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての役割、態度を養う学習とする。							
実習での学びをより深められるように、気づく・伝える力を得られるような、学習、演習を行う。							
【到達目標】							
・介護実習の効果を上げる為、事前に実習する施設や事業所について理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し介護実践に繋げることができる。 ・実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし専門職としての態度を養うことができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
実習と記録 介護福祉士編 一般社団法人滋慶教育科学研究所 新・介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習(参考図書)				実習に関連する情報の管理を適切に行うこと。 実習日誌および実習課題等は期日を守り提出すること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 介護総合演習で何を学び、実習に向けての準備を行う意識を持つ。 介護を学ぶにあたり自身の目標を設定・認識できる。			9	【到達目標】 ①第1実習に向けて準備が出来る。		
2	【授業内容】 授業のオリエンテーション 介護総合演習の位置づけと目的			10	【学習内容】 事前の施設への連絡などの準備 服装や持ち物など		
3	【到達目標】 想像を膨らませることが出来る。			11	【到達目標】 ②第1実習に向けて準備が出来る。		
4	【授業内容】 介護から連想されるワードを沢山出す。 自分がどういう風に仕事に関わるか将来像をつくる。			12	【学習内容】 実習の意味について考える 実習生紹介表の完成		
5	【到達目標】 想像を形にすることができる。			13	【到達目標】 ③第1実習に向けて準備が出来る。		
6	【授業内容】 グループ毎に理想の社会を想像して下さい。とテーマを渡して 模造紙やPCを使って一つの町を作ってもらうワーク			14	【学習内容】 日誌の書き方 目標の立て方		
7	【到達目標】 想像を形にすることができる。			15	【到達目標】 ④第1実習に向けて準備が出来る。		
8	【授業内容】 グループ毎に理想の社会を想像して下さい。とテーマを渡して 模造紙やPCを使って一つの町を作ってもらうワーク			16	【授業内容】 日誌の書き方 文章の書き方		
9	【到達目標】 利用者について考えることが出来る。			17	【到達目標】 ⑤第1実習に向けて準備が出来る。		
10	【授業内容】 関わる方々の年代に何があったのか 自分たちが関わる人達の背景を知る。			18	【学習内容】 学校周辺を散策。 利用者の視点 介護者の視点に立って、考えてみる。		
11	【到達目標】 介護福祉士の仕事の意味/意義について考える。			19	【到達目標】 実習日誌を記入することができる。		
12	【授業内容】 介護とは プロとはというものを考える。 介護の仕事についての認識を深める。			20	【授業内容】 前回授業の体験、考えたことを記録にまとめる。		
13	【到達目標】 利用者と関わる職種について学ぶ			21	【到達目標】 学びの振り返り		
14	【授業内容】 一人の方に対し、どれだけの人が関わるのか調べる。 その中で介護の役割について考える。			22	【授業内容】 定期試験		
15	【到達目標】 学びの振り返り			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
16	【授業内容】 中間試験						
【特記事項】							

科目名 (英)	Basic nursing care 介護総合演習 I	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	千葉 一馬
学科・コース	介護福祉士科	授業 形態	演習	総単位 時間	30時間	開講区分 曜日・時間	後期 木曜 2限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 介護福祉士としての実務経験と、勤務先での実習指導での経験を活かし、介護実践に必要な知識・態度を養う学習を行う。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての役割、態度を養う学習とする。							
【到達目標】 ・介護実習の効果を上げる為、事前に実習する施設や事業所について理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し介護実践に繋げることができる。 ・実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし専門職としての態度を養うことができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 実習と記録 介護福祉士編 一般社団法人滋慶教育科学研究所 新・介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習(参考図書)				【授業外における学習】 実習に関連する情報の管理を適切に行うこと。 実習日誌および実習課題等は期日を守り提出すること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1 9月4日	【到達目標】 実習先の情報 学びをまとめることができる。 【授業内容】 自分で改めて実習先について調べまとめる。			9 11月27日	【到達目標】 1次実習の振り返りを行うことができる。 【授業内容】 自身でできたこと、課題をまとめ、2次実習に活かせるようにする。		
2 9月11日	【到達目標】 実習施設について伝えることができる。 【授業内容】 学生で相互に実習先についてまとめた内容を伝えあい 学びを深める。 翌週実習1段階			10 12月4日	【到達目標】 第2次実習の準備ができる。 【授業内容】 実習の意味・目的/実習生紹介表の作成		
3 9月25日	【到達目標】 実習先の情報 学びをまとめることができる。 【授業内容】 自分で改めて実習先について調べまとめる。			11 12月11日	【到達目標】 第2次実習の準備ができる。 【授業内容】 2次実習をイメージする。		
4 10月2日	【到達目標】 実習施設について伝えることができる。 【授業内容】 学生で相互に実習先についてまとめた内容を伝えあい 学びを深める。			12 12月18日	【到達目標】 第2次実習の準備ができる。 【授業内容】 事例検討		
5 10月9日	【到達目標】 実習での課題を改善することができる。 【授業内容】 実習で抱える課題を共有し、次回実習に向けた準備を行う。 翌週実習1段階			13 1月15日	【到達目標】 第2次実習の準備ができる。 【授業内容】 近隣を簡単に散策 利用者の視点 介護職の視点として考える。		
6 10月23日	【到達目標】 実習先の情報 学びをまとめることができる。 【授業内容】 自分で改めて実習先について調べまとめる。			14 1月22日	【到達目標】 第2次実習の準備ができる。 【授業内容】 前回の体験を記録にまとめたものを、見比べ、自身の成長を実感する。 そのうえで、課題や必要な支援についてグループワークを行う。		
7 10月30日	【到達目標】 実習施設について伝えることができる。 【授業内容】 学生で相互に実習先についてまとめた内容を伝えあい 学びを深める。			15 1月29日	【到達目標】 学びの振り返り 【授業内容】 定期試験		
8 11月6日	【到達目標】 学びの振り返り 【授業内容】 中間試験			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	Comorehension of growth and aging	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	白井良江
	発達と老化の理解	授業 形態	講義	総単位 時間	30時間	開講区分 曜日・時間	前期 水 曜 3限
学科・コース	介護福祉士科						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
大学病院内内分泌代謝科・訪問看護・有料老人ホームに勤務し、看護師として25年以上の経験を持つ。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
病院勤務から介護福祉施設まで、医療や介護にかかわる経験をいかし、イラストや写真を見ながら医学的基礎知識を説明する。実体験から、印象に残る話をまじえて伝える。老化に伴う心身機能の変化と日常生活への影響、それらに合わせてどのような対応や配慮が必要か、理解を深めてほしい。							
【到達目標】							
発達の観点から老化を理解し、その心理と身体機能の変化の基礎的知識を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
介護福祉士国家試験 受験ワークブック2025 上 発達と老化の理解 介護福祉士国試ナビ2025				「こころとからだのしくみ」と重複する内容があり、老化の視点からも理解を深める。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 授業の進め方と評価について・発達と老化の理解について学ぶ意義を理解することができる。発達の概念を理解できる。 【授業内容】 オリエンテーション 運動・言葉の発達 スキャモンの発達曲線			9	【到達目標】 老化に伴うこころとからだの変化と生活を理解できる。 【授業内容】 記憶・知能		
2	【到達目標】 人間の成長と発達の基礎的知識を理解できる。 【授業内容】 身体的・運動・言葉・社会的行動の発達 スキャモンの発達曲線 愛着			10	【到達目標】 高齢者と健康について理解できる。 【授業内容】 平均寿命と健康寿命 ライチャードの性格類型		
3	【到達目標】 コールバーグ、ピアジェ、エリクソン、ハヴィガーストの発達理論を理解できる。 【授業内容】 発達段階説・発達課題			11	【到達目標】 高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点が理解できる。 【授業内容】 高齢者の症状、疾患の特徴 表12		
4	【到達目標】 老年期の定義・老性自覚について理解できる。 【授業内容】 老年期の定義・老性自覚			12	【到達目標】 高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点が理解できる。 【授業内容】 骨・筋肉・関節		
5	【到達目標】 喪失体験・老年期の発達課題について理解できる。 【授業内容】 生理的老化の特徴・高齢者の喪失体験表7			13	【到達目標】 高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点が理解できる。 【授業内容】 骨・筋肉・関節の復習 脳・神経系 (パーキンソン病)		
6	【到達目標】 老化に伴うこころとからだの変化と生活を理解できる。 【授業内容】 老化に伴う機能的な変化 表8 表9			14	【到達目標】 高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点が理解できる。 【授業内容】 脳血管疾患 ふりかえり		
7	【到達目標】 老化に伴うこころとからだの変化と生活を理解できる。 【授業内容】 (復習)老化に伴う機能的な変化 表8 表9 ふりかえり			15	【到達目標】 高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点が理解できる。 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 老化に伴うこころとからだの変化と生活を理解できる。 【授業内容】 中間試験			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	Understanding dementia 認知症の理解	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	小林亜紀
		授業 形態	座学	総単位 時間	30時間	開講区分 曜日・時間	後期
学科・コース	介護福祉士科						
【実務経験】（担当する授業科目に関連した実務経験）							
看護教員の時に解剖生理学及び成人看護学・基礎看護学・精神看護学の講義担当							
【授業の学習内容】（どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか）							
認知症の基本的知識をテキストなどから学ぶと共に、講師の臨床経験から多くの事例を伝え、認知症を身近なものに感じてほしい。「問題行動」と言われている認知症症状は実は介護者の対応によるということを理解し、本当の意味で「寄り添う介護」ができるようグループワークを多く取り入れ、学生が自ら考える時間を多く設けていく。							
【到達目標】							
認知症の理解、及び認知症ご本人と周囲の方々の心理について理解し、「より追う介護」「相手を尊重する介護」がイメージできる。							
【使用教科書・教材・参考書】 見て覚える 介護福祉士国試ナビ（中央法規） 介護福祉士受験ワークブック上（中央法規）				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 授業のすすめかたと評価方法について理解することができる。 【授業内容】 ・授業オリエンテーション ・認知症のイメージ ・認知症の特徴			9	【到達目標】 認知症の診断要件を理解する。 認知機能と受容度の評価方法を理解する。 【授業内容】 認知症の診断と重要度		
2	【到達目標】 脳の構造と機能、症状との関係を理解する 【授業内容】 脳の構造とはたらき ・認知症の病理 ・脳症状の構造と症状			10	【到達目標】 アルツハイマー型認知症、血管型認知症をはじめとした認知症の主な原因疾患の病態を理解する。 【授業内容】 認知症の原因疾患と症状・生活障害 アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症		
3	【到達目標】 認知症と区別すべき状態を理解する 【授業内容】 脳の働きと認知症症状 ・認知症と間違えやす症状 ・うつ病とせん妄 ・老化			11	【到達目標】 アルツハイマー型認知症治療薬、BPSDに対して用いる薬について理解し、認知症予防について理解する。 【授業内容】 治療可能な認知症 治療薬 認知症の予防		
4	【到達目標】 不安・喪失感を抱く理由を理解する。 中核症状とは何かを理解する 【授業内容】 認知症の心理状態 ・不安、喪失感 ・パーソン・センタード・ケア			12	【到達目標】 認知症の人々の扱われ方とその歴史、社会保険制度上の認知症の位置づけを理解する。 【授業内容】 認知症を取り巻く環境 ケアなきケアの時代からの脱核		
5	【到達目標】 中核症状とは何かを理解する。 【授業内容】 代表的な中核症状 記憶障害、見当識障害、遂行機能障害 空間認知障害 資格認知症外			13	【到達目標】 認知症ケアの理念と倫理について学び、認知症の人の権利やかかわりについて理解する。 【授業内容】 認知症ケアの理念と倫理について		
6	【到達目標】 代表的な中核症状と脳の病変部位との関係を理解する。 認知症の生活障害の重要性を理解する。 【授業内容】 代表的な中核症状 失語・失行・失認 生活障害とは ADIL・IADL障害			14	【到達目標】 認知症の人の思いを理解し、支援愛用を考えることができる、 【授業内容】 認知症の人の思い 認知症により体験が生活に及ぼす影響		
7	【到達目標】 BPSDの背景要因や個々のBPSDの概要を知り、理解する。 【授業内容】 BPSDの定義 BPSDの要因 主要なBPSD			15	【到達目標】 【授業内容】 定期テスト		
8	【到達目標】 中間テストを行い前半7回分の理解を深める 【授業内容】 中間テストと解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）			
【特記事項】							

科目名 (英)	Comprehension of handicap 障害の理解	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	大川 空湖
		授業 形態	講義	総単位 時間	30H	開講区分 曜日・時間	後 期 水 曜 3 限
学科・コース 介護福祉科							
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 障害者支援施設・グループホーム・相談支援センターにおいて、20年間身体障害者・知的障害者・精神障害者の生活支援・相談支援等の実務に携わる。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 本科目は、障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基本的な知識を習得する。障害のある人に対する介護や支援を、担当教員の現場経験に基づく実例を通してイメージできるよう配布資料や映像をとおして学習する。							
【到達目標】 ・障害の基礎的理解として、障害の概念、障害者福祉の基本理念を理解することができる。 ・障害種別ごとの医学的、心理的側面も踏まえた生活を理解し、障害のある人の生活と、障害特性に応じた支援について理解することができる。 ・障害のある人を取り巻く家族に対する支援のあり方の理解、介護福祉士がチームアプローチを行う上での連携と協働についての理解ができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 介護福祉士国家試験受験ワークブック2025 上下(中央法規) 見て覚える！介護福祉士国試ナビ2025(中央法規)				【授業外における学習】 障害者支援に関する専門用語が出てくるので、予めワークブック等を読み予習しておくこと。また、重要項目については復習をおこなうこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 障害の概念について理解できる。 【授業内容】 障害とは何か、障害の種類には何があるのか、障害者の法定的定義			9	【到達目標】 肢体不自由(脳性麻痺)のある人の生活について理解できる。 【授業内容】 脳性麻痺の医学的理解(原因、症状)、障害特性に応じた支援。		
2	【到達目標】 障害者福祉の基本理念について理解できる。 【授業内容】 ICIDH・ICF、ノーマライゼーション・リハビリテーション・インクルージョン			10	【到達目標】 肢体不自由(脊髄損傷)のある人の生活について理解できる。 【授業内容】 脊髄損傷とは何か、原因、症状、中途障害者の典型的な障害受容過程		
3	【到達目標】 視覚障害のある人の生活について理解できる。 【授業内容】 視覚障害の医学的理解(視覚機能・視覚障害の種類・原因疾患)心理的理解、生活の理解、障害特性に応じた支援。			11	【到達目標】 知的障害のある人の生活について理解できる。 【授業内容】 知的障害とは何か、原因、特徴、障害特性に応じた支援		
4	【到達目標】 聴覚障害のある人の生活について理解できる。 【授業内容】 聴覚障害の医学的理解(聴覚障害、耳の構造、難聴の種類)、心理的理解、生活の理解、障害特性に応じた支援。			12	【到達目標】 精神障害のある人の生活について理解できる。 【授業内容】 精神障害とは何か、精神障害の分類と主な疾患、障害特性に応じた支援		
5	【到達目標】 言語障害・重複障害のある人の生活について理解できる。 【授業内容】 言語障害とは何か、言語障害の種類、生活上の困難について。重複障害の医学的理解、心理面の理解、コミュニケーション方法。			13	【到達目標】 高次脳機能障害のある人の生活について理解できる 【授業内容】 高次脳機能障害とは何か、高次脳機能障害の原因、主要症状、障害特性に応じた支援		
6	【到達目標】 身体障害がある人の地域生活について理解できる。 【授業内容】 ゲストスピーカー(当事者)による講義、学生との質疑。			14	【到達目標】 発達障害のある人の生活について理解できる。 【授業内容】 発達障害とは何か、発達障害の種類、障害特性に応じた支援		
7	【到達目標】 肢体不自由(脳血管障害)のある人の生活について理解できる。 【授業内容】 肢体不自由とは何か、脳血管障害とは、またその後遺症			15	【到達目標】 これまでの授業の振り返り。わからない問題の洗い出し、自身の課題を見つけることができる。 【授業内容】 定期テスト・解説		
8	【到達目標】 これまでの授業の振り返り。わからない問題の洗い出し、自身の課題を見つけることができる。 【授業内容】 中間テスト・解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	The mechanism of the mind and body	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	長藤 成眞	
	こころとからだのしくみ	授業 形態	講義	総単位 時間	30時間	開講区分	前期	
学科・コース	介護福祉士科					曜日・時間	火曜日 2限	
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)								
介護福祉士として、介護施設、訪問介護、通所介護で実務経験あり								
看護師として、病院及び介護施設、訪問看護での実務経験あり								
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)								
看護師として医療療養型病院や診療所及び介護施設や訪問看護での教育経験がある教員が、医療及び介護現場の実際を交えながら、介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人体の構造や機能を生活支援の場面に応じたこころとからだのしくみ、および心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響に関する基礎的な知識を理解する授業を行う								
【到達目標】								
・介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する。 ・生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみおよび機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。 ・人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を理解する。								
【使用教科書・教材・参考書】					【授業外における学習】			
介護福祉士国家試験受験ワークブック下2025(中央法規出版) 最新・介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ(中央法規出版)					授業進度計画表に沿って、事前に教科書の予習・復習すること。特に復習をすることで知識が定着する。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要			
1	【到達目標】 健康とは何かを理解できる 生命を維持するしくみを説明できる 【授業内容】 オリエンテーション 「健康」の定義や、その背景、理念、健康観を知る			9	【到達目標】 身じたくの意味を説明できる 眼や口腔、毛髪を清潔に保つしくみを説明できる 【授業内容】 生活の中で行われている身じたくに関する、こころとからだの基本項目について学ぶ。			
2	【到達目標】 脳とこころのしくみ(学習、記憶、感情、意欲、適応の関係)を説明できる 【授業内容】 脳の役割(学習・記憶・感情・意欲・適応の関係)を知る			10	【到達目標】 身じたくに関連した心身の機能低下の原因などの病的要因を説明できる。機能低下が及ぼす移動への影響を説明できる 【授業内容】 機能低下が身じたくに及ぼす影響を説明できる 身じたくに関する観察ポイントなどについて説明できる			
3	【到達目標】 脳、神経系の名称とはたらきを説明できる 骨・関節・筋肉の名称とはたらきを説明できる 【授業内容】 脳、神経系のからだの動きのメカニズムを理解する。 骨・関節などからからだの動きのメカニズムを理解する。			11	【到達目標】 消化器の名称とはたらきを説明できる 【授業内容】 消化器のからだの動きのメカニズムを理解する。			
4	【到達目標】 ボディメカニクスについて理解でき説明できる ポジショニングについて説明できる 【授業内容】 人が移動する必要性や移動の効果(姿勢・良肢位・ポジショニング・ボディメカニクス)			12	【到達目標】 食事と栄養とは何か理解できる 食べるしくみ(咀嚼・嚥下)を説明できる 【授業内容】 食事と栄養のしくみについて理解し、摂食嚥下の5期モデルについて理解し、心身の機能低下が食事に影響を及ぼす影響について学ぶ。			
5	【到達目標】 移動の意味、基本的な姿勢や体位保持のしくみを理解できる 座位、立位保持、歩行のしくみを説明できる 【授業内容】 移動のしくみ、心身の機能低下が及ぼす影響、変化の域と対応について理解を深める			13	【到達目標】 食事に関する機能の低下、障害の原因や機能の低下、障害が及ぼす食事への影響を説明できる 【授業内容】 機能低下が身じたくに及ぼす影響を説明できる 食事に関する観察ポイントなどについて説明できる			
6	【到達目標】 移動に関連した心身の機能低下の原因などの病的要因を説明できる。機能低下が及ぼす移動への影響を説明できる 【授業内容】 移動のしくみ、心身の機能低下が及ぼす影響、変化の域と対応について理解を深める。(麻痺、骨粗鬆症、神経疾患など)			14	【到達目標】 欲求について説明できる 自己概念、尊厳について説明できる 【授業内容】 人間の心理の中の、基本的欲求、社会的欲求についてを学ぶ。			
7	【到達目標】 ①眼・鼻②爪・毛髪③口腔う・歯・舌の名称とはたらきを説明できる 【授業内容】 感覚器(視覚・聴覚など)のからだの動きのメカニズムを理解する。			15	【到達目標】 授業の振り返りを行い習熟度を確認する。不得意分野を明確にすることで適切なフォローアップができる。 【授業内容】 期末試験、解答解説			
8	【到達目標】 授業の振り返りを行い習熟度を確認する。不得意分野を明確にすることで適切なフォローアップができる。 【授業内容】 これまでの授業の振り返り、中間試験、解答解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)				
【特記事項】								
すべての教科につながる授業です。								

科目名 (英)	The mechanism of the mind and body	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	長藤 成眞	
	こころとからだのしくみ	授業 形態	講義	総単位 時間	30時間	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日 2限	
学科・コース	介護福祉士科							
【実務経験】（担当する授業科目に関連した実務経験） 介護福祉士として、介護施設、訪問介護、通所介護で実務経験あり 看護師として、病院及び介護施設、訪問看護での実務経験あり								
【授業の学習内容】（どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか） 看護師として医療療養型病院や診療所及び介護施設や訪問看護での教育経験がある教員が、医療及び介護現場の実際を交えながら、介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人体の構造や機能を生活支援の場面に応じたこころとからだのしくみ、および心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響に関する基礎的な知識を理解する授業を行う								
【到達目標】 ・介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する。 ・生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみおよび機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。 ・人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を理解する。								
【使用教科書・教材・参考書】 介護福祉士国家試験受験ワークブック下2025(中央法規出版) 最新・介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ（中央法規出版）					【授業外における学習】 授業進度計画表に沿って、事前に教科書の予習・復習すること。特に復習をすることで知識が定着する。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要			
1	【到達目標】 健康とは何かを理解できる 生命を維持するしくみを説明できる 【授業内容】 オリエンテーション 「健康」の定義や、その背景、理念、健康観を知る			9	【到達目標】 身じたくの意味を説明できる 眼や口腔、毛髪を清潔に保つしくみを説明できる 【授業内容】 生活の中で行われている身じたくに関する、こころとからだの基本項目について学ぶ。			
	2	【到達目標】 脳とこころのしくみ(学習、記憶、感情、意欲、適応の関係)を説明できる 【授業内容】 脳の役割(学習・記憶・感情・意欲・適応の関係)を知る			10	【到達目標】 身じたくに関連した心身の機能低下の原因などの病的要因を説明できる。機能低下が及ぼす移動への影響を説明できる 【授業内容】 機能低下が身じたくに及ぼす影響を説明できる 身じたくに関する観察ポイントなどについて説明できる		
3		【到達目標】 脳、神経系の名称とはたらきを説明できる 骨・関節・筋肉の名称とはたらきを説明できる 【授業内容】 脳、神経系のからだの動きのメカニズムを理解する。 骨・関節などからからだの動きのメカニズムを理解する。				11	【到達目標】 消化器の名称とはたらきを説明できる 【授業内容】 消化器のからだの動きのメカニズムを理解する。	
	4	【到達目標】 ボディメカニクスについて理解でき説明できる ポジショニングについて説明できる 【授業内容】 人が移動する必要性や移動の効果(姿勢・良肢位・ポジショニング・ボディメカニクス)			12		【到達目標】 食事と栄養とは何か理解できる 食べるしくみ(咀嚼・嚥下)を説明できる 【授業内容】 食事と栄養のしくみについて理解し、摂食嚥下の5期モデルについて理解し、心身の機能低下が食事に影響を及ぼす影響について学ぶ。	
5		【到達目標】 移動の意味、基本的な姿勢や体位保持のしくみを理解できる 座位、立位保持、歩行のしくみを説明できる 【授業内容】 移動のしくみ、心身の機能低下が及ぼす影響、変化の域と対応について理解を深める				13	【到達目標】 食事に関する機能の低下、障害の原因や機能の低下、障害が及ぼす食事への影響を説明できる 【授業内容】 機能低下が身じたくに及ぼす影響を説明できる 食事に関する観察ポイントなどについて説明できる	
	6	【到達目標】 移動に関連した心身の機能低下の原因などの病的要因を説明できる。機能低下が及ぼす移動への影響を説明できる 【授業内容】 移動のしくみ、心身の機能低下が及ぼす影響、変化の域と対応について理解を深める。（麻痺、骨粗鬆症、神経疾患など）			14		【到達目標】 欲求について説明できる 自己概念、尊厳について説明できる 【授業内容】 人間の心理の中の、基本的欲求、社会的欲求についてを学ぶ。	
7		【到達目標】 ①眼・鼻②爪・毛髪③口腔う・歯・舌の名称とはたらきを説明できる 【授業内容】 感覚器(視覚・聴覚など)のからだの動きのメカニズムを理解する。				15	【到達目標】 授業の振り返りを行い習熟度を確認する。不得意分野を明確にすることで適切なフォローアップができる。 【授業内容】 期末試験、解答解説	
	8	【到達目標】 授業の振り返りを行い習熟度を確認する。不得意分野を明確にすることで適切なフォローアップができる。 【授業内容】 これまでの授業の振り返り、中間試験、解答解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70％に満たない場合はE評価（特別補講を実施）			
【特記事項】 すべての教科につながる授業です。								

科目名 (英)	Growing up academy グローイングアップアカデミー	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	田村・内藤
学科・コース	介護福祉士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30時間	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日・4限目
【授業の学習内容】 本授業は、地域包括支援センターと連携し、学内自習として学内オレンジカフェ(認知症カフェ)を実施することを目標とし、その企画・運営を行う。 学生自身が内容や運営に必要なものを考え、クラス全員が地域高齢者と交流することで、職業観を高める。 また、教員から教わるだけではなく先輩やクラスメイト同士で学び合い教え合い、協働するとことを学んでほしい。							
【到達目標】 学内認知症カフェの企画・運営を通じて、 ①認知症への理解を深めることができる。②地域包括支援センターの職員の方々とコミュニケーションを図り、地域のニーズのを知ることができる。 ③企画・運営を通じて、実施までのプロセスを体験し、流れを理解することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 1年間の流れを知ることができる 【内容】 オリエンテーション 委員会の活動,4月・5月			9	【到達目標】 本番を想定して、シミュレーションをしチームで考える 【内容】 オレンジカフェシミュレーション		
2	【到達目標】 オレンジカフェを知る 【内容】 2年生から引継ぎをうける			10	【到達目標】 初めてのオレンジカフェを実施することができる 【内容】 オレンジカフェ本番		
3	【到達目標】 オレンジカフェを知る 【内容】 2年生から引継ぎをうける			11	【到達目標】 レクリエーションを考えよう!! 【内容】 グループを決め、計画書を立てる		
4	【到達目標】 クラス運営を考えよう!! 係決め 【内容】 クラス会議 クラス目標について			12	【到達目標】 レクリエーションを考えよう!! 【内容】 グループを決め、計画書を立てる		
5	【到達目標】 オレンジカフェの計画を立てよう!! 【内容】 チーム発表。役割分担			13	【到達目標】 レクリエーションを考えよう!! 【内容】 レクリエーション発表		
6	【到達目標】 オレンジカフェの計画を立てよう!! 【内容】 チーム発表。役割分担			14	【到達目標】 本番を想定して、シミュレーションをしチームで考える 【内容】 オレンジカフェシミュレーション		
7	【到達目標】 委員会活動を通じ、クラスの運営を図る 【内容】			15	【到達目標】 半期の振り返り 【内容】 定期テスト		
8	【到達目標】 半期の振り返り 【内容】 定期テスト			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	Growing up academy グローイングアップアカデミー	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	田村・内藤
学科・コース	介護福祉士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30時間	開講区分 曜日・時間	後期 金曜日・4限目
【授業の学習内容】 本授業は、地域包括支援センターと連携し、学内自習として学内オレンジカフェ(認知症カフェ)を実施することを目標とし、その企画・運営を行う。 学生自身が内容や運営に必要なものを考え、クラス全員が地域高齢者と交流することで、職業観を高める。 また、教員から教わるだけではなく先輩やクラスメイト同士で学び合い教え合い、協働するとことを学んでほしい。							
【到達目標】 学内認知症カフェの企画・運営を通じて、 ①認知症への理解を深めることができる。②地域包括支援センターの職員の方々とコミュニケーションを図り、地域のニーズのを知ることができる。 ③企画・運営を通じて、実施までのプロセスを体験し、流れを理解することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 1年間の流れを知ることができる 【内容】 後期の目標 委員会の活動、			9	【到達目標】 オレンジカフェを実施することができる 【内容】 オレンジカフェ本番		
2	【到達目標】 本番を想定して、シミュレーションをしチームで考える 【内容】 オレンジカフェシミュレーション			10	【到達目標】 事例検討をする 【内容】 実習先での事例を振り返る		
3	【到達目標】 オレンジカフェを実施することができる 【内容】 オレンジカフェ本番			11	【到達目標】 本番を想定して、シミュレーションをしチームで考える 【内容】 オレンジカフェシミュレーション		
4	【到達目標】 事例検討をする 【内容】 実習先での事例を振り返る			12	【到達目標】 オレンジカフェを実施することができる 【内容】 オレンジカフェ本番		
5	【到達目標】 本番を想定して、シミュレーションをしチームで考える 【内容】 オレンジカフェシミュレーション			13	【到達目標】 オレンジカフェを実施することができる 【内容】 オレンジカフェ本番		
6	【到達目標】 オレンジカフェを実施することができる 【内容】 オレンジカフェ本番			14	【到達目標】 事例検討をする 【内容】 実習先での事例を振り返る		
7	【到達目標】 半期の振り返り 【内容】 相手に伝える			15	【到達目標】 半期の振り返り 【内容】 相手に伝える		
8	【到達目標】 本番を想定して、シミュレーションをしチームで考える 【内容】 オレンジカフェシミュレーション			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							